

1. 知能

『知能』とは…「個人差」に関する研究に端を発する概念である

1) 知能の意味・特性

◦ビネーの知能観

- ・一定の方向をとりそれを維持する能力…試行を一定方向に保ち続ける意志の力
- ・目標達成のために適応する能力
- ・自己批判する能力

◦スピアマンの知能観

- ・経験の認識…経験の性質を認識すること
- ・関係の抽出…二つの以上の観念が与えられた場合にその関係を理解すること
- ・相関者の抽出…観念と関係が与えられた際もう一つの観念を呼び起こすこと

2) 知能の構造

◦スピアマンの二因子論：一般因子に重きを置く

一般因子 (g) と特殊因子 (s) の2つの因子で説明が可能であるとする

→後に複数の s 間にも共通して存在する群因子も存在すると訂正がなされる

◦サーストンの多因子構造

「空間認知、知覚の速さ、語彙、語の流暢性、数、記憶、推理」の 7 因子構造が一般に認められている

◦ギルフォードの知能構造モデル

内容、操作、所産の三軸構成による理論的構造モデルを提唱

3) 知能検査

知的障害児を判定するため…人を分類するという一面 (ビネー式知能検査法 etc)

病院臨床などの場面で利用するため…個人の能力や可能性を探るという一面

(ウェクスラー法知能検査 etc)

→知能検査を用いる際には以上のような知能検査の両面性に留意する必要がある

2. 創造性

1) 定義

・創造性というものに対する確定的な定義は存在しないが様々な定義の中に共通して言えることは「新しい」ということである

⇒他と違った、独創的な、ありふれている

・創造的な過程の最初の要因は現状に対する不満である

→全ての人に創造性は存在する

2) 知能と創造性

『創造能力とは知能であるのか?』

従来の知能テストの結果と創造的行動との相関はほんのわずかである

←元来知能テストとは創造性を測定するためにできたものではないから

⇒知能テストの拡充や知能の意味・内容の拡充がなされるようになる

<参考文献> 上野正二,辰野千寿編『知能の心理学』新光閣書店, 1968